

## 第36回 ツバメ

カコちゃん ショウくん かほくがたチルドレン



春に南から渡ってきて、民家の軒下などに巣を作り子育てをして、秋になると南に帰って行く。毎年ツバメがやって来るのを楽しみにしている家主さんはたくさんいると思います。ツバメのために軒先を空けておくなど、人々から大切にされている野鳥の代表ともいって良いでしょう。ツバメを観察している人も多く、そうした人たちはよくご存じかと思いますが、卵が孵化してある程度雛が育ってくると、親鳥は餌を運んでくる時以外は巣から離れて、夜は雛とは別の場所で過ごすようになります。また、ツバメは子育てを2回することが知られていますが、最初に巣立った雛は、一度巣から離れると巣へは戻ってきません。こうした親鳥や巣立った雛はどのように過ごしているのでしょうか。昼間は小群で餌をとったりしているのですが、夜になると集団で罅をつくって過ごすことが知られています。河北潟にはそうした罅があります。罅にツバメが一斉に入る行動を罅入りといいます。

夏から秋にかけて、河北潟のヨシ原でツバメの罅入りを見ることができます。場所は年によってあるいは同じ年中でも変わることがあります。金腐川河口にある金沢市こなん水辺公園のヨシ原や、東部承水路の湖岸のヨシ原がよく使われています。かつては、河北潟干拓地にもよく罅がありましたが、最近は干拓地内の休耕地がほとんどなくなってしまったので、まとまったヨシ原も見られなくなり、ツバメの罅もなくなりました。

日が沈むころ、四方から湖岸にツバメが集まってきます。徐々にヨシ原の上空はツバメだらけとなり、あちこちを飛び回ります。一連の行動は、日没とともにクライマックスを迎え、一斉にヨシ原に飛び込みます。その数3万羽ともいわれています。すっかり静かになった上空は暗闇が拡がり、ヨシ原の中からツバメの鳴き声がざわざわと聞こえてきます。

夜の間をヨシ原の中で集団で過ごしたツバメは、朝になるとヨシ原から飛び立ち、親鳥は2回目の雛の餌やりに忙しく過ごします。1回目に巣立った雛は、その点のんびりして、いつまでもヨシ原の近くの電線にとまっていたりします。秋に向かって2回目に巣立った雛も加わり、罅に集まるツバメは増えていき、よりダイナミックな罅入りの様子を見ることができます。

河北潟干拓地や河北潟の周辺には、ツバメの仲間としてはツバメ以外に、コシアカツバメやショウドウツバメもかつてはよく見られました。しかし、コシアカツバメはもう見られなくなってしまいました。ショウドウツバメは、かつては干拓地の支道に集団で降り立つ姿などが見られましたが、最近はあまりみられなくなってしまいました。(文：高橋 久)